

<文学部の紹介>

文学部は日本文学や西洋文学等の研究をする文学のほかにも、研究内容は多岐にわたっています。たとえば、歴史や考古学について学ぶ史学、自然地理や地誌学を学ぶ地理学、生きる意味や生き方といった「見えないもの」の真理を追究する哲学、人間の心の仕組みを科学的に検証し分析する心理学などです。また学ぶ内容についても非常に種類が多く、様々な学問に対応している講義があるのも特徴の1つです。

文学部は経済学部や法学部等と比較して、「社会」とはあまり関係のない学部のため、一般的に「就職に不利」と言われたりすることもありましたが、近年は必ずしもそうとは言えません。多様な人材を求めている企業も多くなっているためです。主な就職先は、マスコミ・出版社の編集者など言葉にかかわる仕事を希望する学生が多いようです。また、中学・高校の教諭を目指す人もいます。

<シグマ講師による学部紹介 豊津駅前校 森先生>

- 1.所属学部・学科:文学部 総合人文学科 国語国文学専修
- 2.専攻:国語学
- 3.専攻についての詳細:

人とコミュニケーションをとるために必要なのは言葉です。それを学べるのが文学部です。英語英文学専修や国語国文学専修、フランス語フランス文学専修、ドイツ語ドイツ学専修などは言葉や文学を学びます。

しかし、文学部は言葉や文学はもちろん、その他には歴史や地理、芸術、映像、文化共生、教育、心理学なども学ぶことができます。この多彩な学びの中から自由に自分の学びたいことを選びます。

ここでは文学部の代表的な国語国文学を紹介しようと思います。

みなさんは普段話している言葉を気にしたことがありますか？例えば、「すっきり」と「さっぱり」の違いは何でしょうか。「顔を洗ってすっきりする」、「顔を洗ってさっぱりする」は両方言えますが、「箱にすっきりと収まる」は言っても「箱にさっぱりと収まる」という表現はおかしいですね。もちろんそのようなことは普段気にしませんし、どちらであっても問題ないと思うでしょう。確かに、日々生活する中でそれを知らなくても困ることはありません。

しかし、日本語を勉強している外国人の方は、このような日本語の微妙な表現の違い、使い方などをとても不思議に感じ、そしてその違いを理解することに苦労されているようです。

私達は当たり前のように日本語を使っているため難しいと思うことはありませんが、日本語は現在世界で最も難しい言語の一つに挙げられます。

例えば、英語で一人称は「I」だけですが、日本語では、「僕」「私」「俺」中には「おら」なんて表現もありますよね。これだけ見ても、日本語の表現の多さというのがすぐに分かりますよね。

普段私達は日本語を何気なく使っていますが、学べば学ぶほど、思いがけない様々な規則が

あり、そしてそれを知るたびに、日本語の難しさ、奥深さ、そして美しさを発見することができます。

それでも皆さんの中には、「日本語を勉強してなんの役に立つのだろう？」と思われる方もいるかもしれません。しかし、新聞社や出版社のように正しい日本語を使わなければならぬ会社はたくさんありますし、その他の会社でも正式な書類を書く機会はいくらでもあります。現在正しい日本語が使えない方が多いという問題が、新聞などでよく取り上げられますが、実際に上のような時に正しい日本語が使えなくて困ってしまうケースは、いくらでも考えられます。逆に正しい日本語を使えることができれば、どこにいても重宝されますし、そのスキルをいかして、外国人の方に日本語を教える日本語教師の先生を目指す人もいます。

もちろん文学部では、日本語に限らず、自分の興味のある国の言語、文化を研究することができます。そして自分の身近にある日本語はもちろん、英語やフランス語、イタリア語など国境を越えて理解を深め、様々な国の文化を吸収することができるのが、文学部の一番大きな魅力といえるのではないのでしょうか。

4.卒業後の進路

進路としては、大半は民間企業に就職するか、学校の教員になるかです。もちろん専門的に学びたい人は大学院に行きます。

5.取得可能な資格

必要な授業を受けて教員免許を取得することができます。